

C-up ワールド

2002年1月号

2001年12月～2002年1月の山行記録

△△△△△△△△△△△△△△△△

自主山行
北アルプス霞沢岳西稜（西尾根）
12月31日～1月1日

参加者

松本 善行（L）、矢田 実（SL）、
谷口 由利子、岩崎 元郎、
田中 良一、黒田 記代（計6名）

行程

一日目：中ノ湯→釜トンネル→砂防事務所手前（取付き）→1900m付近（幕営）
二日目：幕営地→霞沢岳→1900m付近（ピストン／テント撤収）→砂防事務所手前→釜トンネル→中ノ湯

本山行のポイント

尾根下部に急斜面数箇所あり。新雪の下に凍りついた泥壁と岩で、わかんでの歩行多少困難。
山頂雪原手前1箇所“3級”程度の岩場あり。但しアイゼン登降に問題なければザイル不要。山頂雪原では視界が利かない時は、方向を見失いやすい。

感想

発案者は岩崎さん。場所は北アルプス、マイナーなピークかつマイナーな尾根。今回はそこにこだわりがある。11月に偵察に行った際、取付き付近は雪もなく全くの笹藪であった。ところが、藪こぎの不安を一掃する出だしからのラッセル。元旦の天候はうす曇りで行動可能であったが徐々に悪化し、山頂付近ではかなりの風雪。進退判断に迷いつつも強行する。それもそのはず、強力なスケット、鳥取の田中さんたいへんお世話になりました。

報告者：松本

△△△△△△△△△△△△△△△△

自主山行（最終日に安心登山科講習と合流）
夜叉神峠から鳳凰三山往復
12月22日～12月24日

参加者

鈴木 敏人（L）、水上宏一郎（本科生20期）
（計2名）

行程

第一日：8：30 甲府駅～タクシー～10：30 夜叉神峠登山口発～16：30 南御室小屋
（テント泊）
第二日：6：30 南御室小屋発～8：15 薬師岳～10：30 地藏岳～13：30 南御室小屋
（水上9：30 観音岳から往路へ～11：30 南御室小屋）テント泊
第三日：6：00 南御室小屋発～7：45 杖立峠～

講習と合流～11:00 夜叉神峠登山口
～村営芦安温泉

本山行のポイント

1. 今シーズン初めての雪山テント縦走で、果たして予定どおりのタイムで行けるか?
2. 稜線での強風(鳳凰三山は強風の日が多いと話しに聞いていた)によるパランスの崩れ、滑落
3. 稜線でのホワイトアウト

感想

ポイント2. 3. とも、天候に恵まれルート上で特に危険な箇所もなく、問題はなかった。ポイント1の反省として、1日目の前半がついオーバーペースになってしまい、後半こまめに休憩をとることになってしまったことがあげられる。不要な荷物のデポ、薬師岳からの別行動、2日目の南御室小屋でのテント泊など、無理のない行動のための的確な判断を水上さんが提案してくださり、満足のいく山行となった。稜線の雪は少なかったが地蔵岳手前のピーク東斜面は腰までの積雪量であった。(私の15分くらい前を山塾OBのS氏&Kさんがラッセルしてくださっていた。)3日目、萐平を過ぎたあたりでみた富士山裾野からの日の出、その光によって変化していく白峰三山を覆う雲の色、そして白樺林の中を朝日を浴びてゆっくりと歩むカモシカの姿が忘れられない。また、松浦さん率いる講習と合流したときのみなさんの笑顔がとてうれしかった。

報告者：鈴木



講習山行

(安心登山教室/初級/八ヶ岳雪山登山教室)

硫黄岳と赤岳

1月12日～14日

参加者

松浦、工藤(講師)
茨木、矢沢、南谷、末木(本科生)
関根勝美、山野昭人、山野美香、岡野広孝、
羽石悠起夫(ゲスト) (計11名)

行程

美濃戸口から入山、赤岳鉱泉キャンプ場にテントを張りベースキャンプ(BC)とし、赤岳、硫黄岳に登る。

第一日：美濃戸口12時出発。16時ころ赤岳鉱泉BC着。テント設営。

第二日：朝6時半ころ赤岳鉱泉BC出発。行者小屋7:13着。文三郎尾根を登り、赤岳山頂10:03着。地蔵尾根を下山。行者小屋11:50着。赤岳鉱泉BC、12:15分帰着。

第三日：朝6:35赤岳鉱泉BC出発。硫黄岳頂上8:34着。同じルートを下山。赤岳鉱泉BC、9:51帰着。BC撤収作業後、10:50帰宅の途につく。美濃戸口13:45分着。共同装備返却後、解散。

本山行のポイント

冬山登山の入門コースを登り、雪上アイゼン無し歩行、アイゼン装着歩行、ピッケル操作を実践し、身に付ける。

感想

最高の天候に恵まれ、日本海までも見渡せる眺望を楽しめのはありがたいことだった。雪が岩・砂礫を覆い隠した登山道でのアイゼン装着登山は、心理的にも肉体的にも楽な

登山であった。

ただし、赤岳頂上からの下山途中で、雪が少ない、砂礫個所の通過ではかなり滑落の危険を感じた。

次は、トレース無し斜面の登山、天候の良好でない状況での登山も経験しなければいけないだろう。

報告者 鈴木



自主山行

御小屋尾根から阿弥陀岳・赤岳・横岳・硫黄岳 (冬山テント縦走)

1月12日～14日

参加者

椎名守、矢田実、松本善行 (研究生同人)
鈴木敏人 (本科生20期)

行程

第一日: 10:40 美濃戸口発～13:10 御柱山 (御小屋山)～14:10 テント場設営
第二日: 3:30 起床～5:50 出発～9:55 阿弥陀岳～12:00 赤岳～12:20 天望荘～14:00 赤岳鉱泉テント泊
第三日: 2:30 起床～4:20 出発～6:20 地蔵の頭～7:25 横岳～8:55 硫黄岳～9:55 赤岳鉱泉～10:50 出発～12:45 美濃戸口

本山行のポイント

＜御小屋尾根のテント場＞ 日当たり良好、阿弥陀岳の展望最高、5人用テント一張りにはぴったりの広さ。

＜御小屋尾根のラッセル＞ 御小屋尾根では、1日目に途中で引き返してきた2人組パーティーと会ったのみ。2日目、テント場から15

分ほど進んだあたり (標高2170m付近、不動清水) からトレースは消えた。積雪量はほとんど膝より下で、雪質も比較的しまっていたのでそれ程難航しなかったが、積雪量が膝上かつ急斜面の場所ではかなり体力を消耗した。阿弥陀岳山頂まであとわずか、左前方には赤岳、光にきらめく雪原、風と雪が作った縞模様、そこにトレースをつけていく逆光の矢田さんの姿が良かったがシャッターチャンスを逃してしまい残念。

＜赤岳天望荘での判断＞ 12:20 赤岳天望荘着。「ここから先どうしますか?」と椎名さんに質問された。エアリアマップを見ると硫黄岳まで2時間。仮に2倍かかっても16:30に硫黄岳。そのあとはヘッドランプをつけば赤岳鉱泉まで行ける。「行きましょう。」と私は軽率にも答えてしまったが、椎名さん曰く「少し無理すれば行けるけれども、その少しの無理をする必要は全く無い。その少しの無理が危険につながる。」天候も怪しくなってきたこともあり、横岳・硫黄岳には明日行くということで、地蔵尾根から赤岳鉱泉へ下る。まだまだ考慮の足りない自分を反省。

＜横岳でのトラバース＞ 3日目、横岳を登り始める頃に日の出。モルゲンロートに染まる赤岳。ザイル使用の可能性があった2カ所のトラバース地点を椎名さんが教えてくださった。今回はトレースがしっかりついていたので、ザイルは出さずに通過。

＜スタンディング・グリセード＞ アイゼンを外した松本さんと矢田さんの硫黄岳からの下山の速さにはついていけませんでした。

感想

大先輩お三方と一緒にの山行となり、いろいろと勉強になりました。この場をお借りして御礼を申し上げます。ありがとうございました。縦走路から見えるバリエーションルートを教

えてもらう度に、「とにかくやってみよう」という気持ちでいっぱいになるのですが、先を急がず一つ一つ味わいながら経験をつんでいこうと思います。 報告者 鈴木

△△△△△△△△△△△△△△

自主山行

2002年正月山行 (早川尾根縦走)
12月30日～1月1日

参加者

坂口理子 (L)、 幡鎌亮一 (同人)
金沢和則 (講師) (計3名)

行程

前夜：急行アルプス→茅野駅ステーションビ
パーク
第一日：茅野(タクシー)→戸台口→北沢峠
第二日：北沢峠→仙水峠→栗沢山→アサヨ峰
→早川尾根小屋
第三日：早川尾根小屋→白鳳峠→高嶺→地藏
岳→鳳凰小屋→御座石鉱泉

本山行のポイント

- ・白鳳峠から高嶺までの登りが、風が強い。
- ・ラッセルは栗沢山の登りが主。アサヨ峰からはトレースがあった。

感想

今年は北沢峠～仙塩尾根の縦走を予定していたが、天候のため、早川尾根の縦走に変更した。山梨側のため悪天の影響もそれほどなく、また日程も短縮となった。しかし、稜線上はかなり風が強く、思ったよりも時間をとられた。やはり冬山の縦走はなかなか厳しい。仙塩尾根の縦走実現にはまだまだ課題が多いと痛感した。・・・が、天気図を読み、自在にル

ート変更を練ることができるのも、縦走の醍醐味。予想外のルートだったが、充実した山行となった。

来年の課題:もうちょっと早起きしよう・・・。
報告者 坂口

▲▲▲▲▲▲▲▲▲▲▲▲▲▲▲▲

編集局からのお願い

新年第1号はいかがでしたでしょうか。今年の編集は、丹念に山行報告を残して、年間を通じての活動が今後の山行の資料となるように進めていきたいと考えています。講習・自主いずれの山行報告もご提出、よろしくお願ひします。なお、ご報告は無名山塾ホームページの山行報告入力フォームで送信されると自動的に編集局に登録されますのでご活用ください。もちろんFAX その他で山塾サポートへお送りいただいても結構です。また、山行報告以外の楽しい原稿もお寄せください。お待ちしております。

アドレス

C-UP ワールド

<http://member.nifty.ne.jp/c-up/>

無名山塾

<http://www.sanjc.com>

山塾サポート

RXL13656@nifty.ne.jp

Phone & Fax 03-3600-3570

iモードホームページ

<http://member.nifty.ne.jp/c-up/i.htm>